

資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



『JTB 時刻表 100年誌』

JTB 時刻表 100年誌制作委員会編
JTB パブリッシング発行
2026年1月／7,700円（税込）
所蔵箇所：信濃町

©JTB パブリッシング

本書は、『汽車時間表』として創刊された『JTB 時刻表』の100年の軌跡をまとめたものである。『時刻表』の変遷を通じて、日本の鉄道や観光のみならず、人々の生活や社会の変化も振り返ることができる。

1925年4月、日本旅行文化協会から鉄道省運輸局編纂『汽車時間表』が翻刻発売された。これが『JTB 時刻表』の創刊号である。その後『時間表』『時刻表』『JTB 時刻表』と誌名の変遷があったが、いずれも限られた誌面の中に旅程や費用などの情報が満載されており、旅行案内書を意識した内容となっている。表紙についても、1963年8月号からカラー写真が掲載されるようになったが、それらを経年で見ることで、車両の変遷、時代ごとの風景の様子、各時代で注目されている出来事などを知ることができる。また、本書では、『時刻表』の製作の流れが写真とともに掲載されており、その大変さが伝わってくる。

資料室では、1951年8月号以降の大半を上野で一般公開しており、本書において『時刻表』が閲覧できる施設として紹介されている。（古森）

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『築地から豊洲へ —世界最大市場の歴史と将来』

伊藤裕康監修、小松正之著
マガジンランド発行
2018年10月
所蔵箇所：信濃町

本書は、日本橋から築地、そして豊洲へと続く中央卸売市場の変遷を、行政と現場それぞれの視点から描いた一冊である。豊洲移転の経緯や市場法改正の動向についても詳しく書かれているが、特に市場の構造が「輸送手段」といかに深く関わってきたかという点が整理されている。

例えば、築地の象徴でもあった扇形の建物は、かつて汐留駅から引き込まれた国鉄「東京市場駅」の線路を敷くために生まれた形だという。長いプラットホームを確保するためにカーブを描いたその形状は、鉄道と船舶が水産物流の主役だった時代の設計思想を示している。

しかし、輸送の主役がトラックへ移ると、この鉄道に特化した動線設計が逆に場内の制約となっていく。本書では、こうした時代の変化に伴う築地特有の課題だけでなく、移転先の豊洲市場においても、街区が道路で分断されるという新たな物流上の課題があることを指摘している。巨大市場の移転を、単なる施設の更新ではなく食の物流システムの転換点として捉えることができる資料である。

（原）

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP (<https://www.itej.or.jp/about>) をご覧ください。

担当：古森崇史、原祥太、土方規義、田邊由佳

